



えひめ

『瀬戸内しまのわ2014』のイベントとして開催した『しまのわ“まるごと”しまフェスタ in三津浜』のために大型帆船『日本丸』が松山港に寄港しました。写真は、帆を開くセイルドリルを実施しているときのものです。「太平洋の白鳥」と称される優雅な姿に見学者は大喜びでした。



Contents

- ・【現場だより】
 - 東予港複合一貫輸送ターミナル整備事業が2014年度に新規事業採択！
- ・今治市が『みなと交流センター』建設工事に着工。
- ・2013年度 四国みなとオアシス協議会通常総会が開催されました！
- ・『まつやま環境フェア2014』に出展しました。
- ・瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会2014年度総会が開催されました。
- ・来島海峡航路の検潮所が新しくなりました！

現場だより

東予港複合一貫輸送ターミナル整備事業が 2014 年度に新規事業採択！

2014 年度の新規事業として、東予港中央地区複合一貫輸送ターミナル整備事業が国土交通省の直轄事業として採択されました。

東予港は、製造品出荷額等約 8,877 億円（四国第 3 位〔市町村単位〕：2012 年経済センサス）の西条市の中心部に位置し、臨海部に立地する造船業や金属工業関連企業などの産業活動を支える拠点として重要な役割を果たしています。

東予港を発着するフェリー航路は、西日本の産業・経済活動に必要不可欠なフェリー貨物の物流拠点として機能しており、一部のフェリー貨物は、阪神港を經由して海外へ輸送され、国際コンテナ戦略港湾への集貨としても重要な役割を担っています。

このような中、フェリー運航事業者は、フェリー貨物量の増大及び船舶の老朽化に対応するため、フェリー船舶の大型化・省エネ化を目的としたリプレースを計画していること、また、既存の岸壁は建設後 41 年が経過し、老朽化により物流機能に支障を来す恐れがあることから、岸壁等の水深を確保する複合一貫輸送ターミナルの整備を行うものです。

さらに、南海トラフを発生源とする大規模地震発生時に緊急物資等を受け入れるため、耐震強化岸壁を整備するものです。

【対象事業】

- ・整備施設：岸壁（水深 7.5m）、
航路（水深 7.5m）、
泊地（水深 7.5m）、
臨港道路、ふ頭用地
- ・事業期間：2014 年度～2018 年度

<位置図>



港	地区名	事業主体	施設名	数量	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
東予港	中央地区	国交省	岸壁(水深7.5m)	260 m					
			航路(水深7.5m)	1,500 千m3					
			泊地(水深7.5m)	400 千m3					
	愛媛県		臨港道路	470 m					
			ふ頭用地	24 千m2					

今治市が『みなと交流センター』建設工事に着工。

2014年1月9日(木)、今治市片原町の新港湾ビル『みなと交流センター』建設予定地で、建設後50年近く経過し老朽化した今治港港湾ビルを建て替える工事の安全祈願祭が行われました。安全祈願祭には、関係者約50名が出席し、神事後、菅良二今治市長が「長年の懸案事項であった、みなと交流センターの起工式が滞りなく行えました。中心市街地の活性化には、“港からにぎわいづくりを”という思いは非常に強く、交流を通じて大きな起爆剤となってほしいと考えています」と挨拶されました。

『みなと交流センター』は鉄骨鉄筋コンクリート4階建て(延べ床面積:約3,300㎡)で、フェリー待合所や海事関連事務所などが入居する予定です。地元からは、今治市の海の玄関口として、また、観光交流拠点として、地域の活性化に繋がる重要な役割を担う施設として期待されています。



▲2015年夏ごろ完成予定(イメージ)



▲安全祈願祭の様子

2013年度 四国みなとオアシス協議会 通常総会が開催されました！

2014年2月26日(水)に四国みなとオアシス協議会通常総会が行われました。2007年10月に八幡浜市で総会が開催されてから6年ぶりの開催となりました。今回は、移動にかかる負担を軽減するために、テレビ会議の形式で行われました。

通常総会では、みなとオアシス奈半利の木下会長から他のみなとオアシスと再び一緒になって活動できることへの期待、各オアシスの抱える課題などを解決していくきっかけづくりとしての協議会の活用が呼びかけられました。

総会では、会則の変更、2014年度活動計画が審議され、全会一致で可決されました。役員の改選では、新会長にみなとオアシス八幡浜みなとりの運営団体である NPO 港まちづくり八幡浜の谷本則男理事長、新副会長に小松島みなとオアシスの運営団体である NPO 法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしまの出口憲二郎理事長が選出されました。

総会に続いて開催された連絡会議では、各みなとオアシスからそれぞれの苦労話を交えながら、今年度の事業報告と来年度の事業予定について発表がありました。



▲総会の様子(愛媛会場)



▲テレビ画面(4会場が表示されます)

『まつやま環境フェア 2014』に出展しました。

2014年4月6日(日)、松山市が主催する『まつやま環境フェア 2014』が松山市総合コミュニティセンターで開催されました。

日々の生活は年々便利になっていますが、それと引き替えに様々な環境問題が発生しています。そこで、これらの問題をひとりでも多くの市民に身近に考えてもらい、環境問題に対する関心や意識を向上してもらえよう、『まつやま環境フェア』を松山市が開催。エコ★コーナーに14団体が出展し、展示・啓発・リサイクル家具販売・相談等が実施されました。当事務所もパネルを展示し、海洋環境整備事業・海面清掃兼油回収船『いしづち』の紹介を行いました。



▲会場風景



▲海洋環境整備事業に興味津々

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 2014年度総会が開催されました。

2014年5月30日(金)愛媛県松山市のホテルにおいて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会2014年度総会が開催されました。総会には、瀬戸内海沿岸各地から19市町の首長と会員である各自治体及び地方整備局の担当者等約140名が参加し盛大な開催となりました。

第1部の総会では、2013年度の事業実績及び収支決算の報告、今年度の事業計画及び収支予算の審議・決議が行われ、第2部では、『瀬戸内海の島々を訪ねて』の著者である山口皓三氏より「瀬戸内海の魅力について」のご講演がありました。第3部では、第8回瀬戸内海首長サミットが19市町の首長と大臣官房技術参事官及び地方整備局等の幹部の参加により開催されました。今回は、「観光と防災の融合」をテーマに協議会会員が連携して行う観光と防災に係る取り組みを促進させるための活発な議論が行われ、①瀬戸内の魅力の広い発信、②瀬戸内クルーズ文化の確立と多方面へのプロモーション活動、③災害時における相互支援体制の強化及び物資輸送訓練の実施、④瀬戸内の絆の強化、の4項目を柱とした『松山宣言』が採択されました。



▲総会の様子



▲『松山宣言』の発表

来島海峡航路の検潮所が新しくなりました。

しまなみ海道の来島海峡大橋を渡るときに、北西側に見える小島（おしま）の赤い灯台の手前にあった白い小屋がなくなったことに気づいた方はいらっしゃるでしょうか。白い小屋は1975年から海の満ち引きを観測していた検潮所で、現在は新しい施設を馬島（うまし）に設置して潮位を観測しています。

来島海峡航路は多くの大型船が通るので、浅くて危ない箇所はないか、定期的に航路の深さを測量しています。水深の測量は、調査船から海底まで超音波で深さを測定するため、引き潮に比べて満ち潮では潮位差の分だけ多めに測定されてしまいます。このため、検潮所で潮位を測定して潮の満ち引きの差を補正することで、正しい水深を求めることができます。

新しい検潮所に向かうには、波止浜港から定期船に乗るか、しまなみ自転車道の馬島料金所からガラス張りの馬島エレベータで地上まで降りて道なりに港へ向かえば検潮所に到着します。サンライズ糸山（今治市砂場町）から馬島港まで片道2.5km、来島海峡大橋の歩行者料金は無料ですので洋上散歩を兼ねて馬島を訪ねられてはいかがでしょうか。



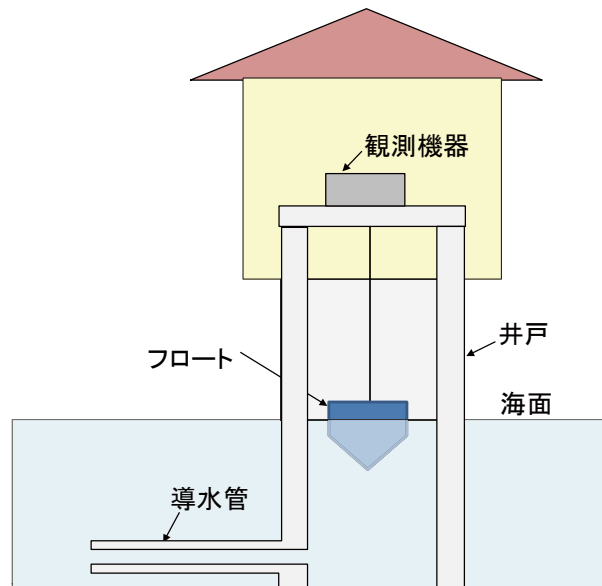
▲小島にあった検潮所



▲新しく馬島に建設された検潮所

検潮所のしくみ

海水が導水管を通して出入りするため井戸内の水位は海面と同一となります。フロートや計測器で井戸内の水位を測定することで、海面の満ち引きを把握することができます。



国土交通省 四国地方整備局
松山港湾・空港整備事務所

〒791-8058
松山市海岸通 2426-1
TEL 089-951-0161 (代表)
FAX 089-946-8010

Coastline えひめ No.25 編集・発行

【e-mail (企画調整課)】 mtjm-i88s3@pa.skr.mlit.go.jp
【URL】 <http://www.pa.skr.mlit.go.jp/matsuyama/index.html>
【海とみなとの相談窓口】 0120-497-370 (全国共通フリーダイヤル)
受付時間 9:30~12:00、13:00~17:00 (土・日・祝祭日・年末年始を除く)

